



7～9月のプロジェクト活動状況

下村専門家が6月12日に再赴任され、続く6月16日、19日にそれぞれ短期専門家計4名が赴任、7月27日には無収水管理短期専門家、8月3日には行政機能と浄水場施設整備を兼任される短期専門家が赴任され、2014年プロジェクト活動はエンジン全開です。

また、8月27日にはJICAインターンシッププログラムで東京大学公共政策大学院の小岩さんが1ヶ月間MAWASUプロジェクトでインターンをされました。

本号では、7月からはじめた新たな取り組み「分科会」とラオスではじめて実施された「水道教室」を中心にお伝えします。



「分科会」のスタート

分科会とは、プロジェクトメンバー担当分野ごとに協議をする個別会合で、7月の月例会議 (IPWC+PMT会議) から取り入れられました。分科会には、①水質管理、②水道教室、③人材育成、④営業・顧客関係、⑤水道事業ガイドライン、水道ビジョン、⑥サマリー年報、⑦データ管理マニュアル、長期計画策定マニュアル、⑧財政の各分野があります。①～④と⑧は水道公社に直接関わることから、
(続きは2ページ)



「水道教室」開催

皆さん小学生の時に浄水場見学に行ったり、地元水道局の人たちがクラスにやって来て水道の説明を受けた記憶がありませんか？ 文部科学省の小学校学習指導要領に「地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について…」とあり、日本の小学生は4年生の時に水道について学ぶ機会があります。ラオスでは、そのようなカリキュラムはありませんが、MAWASUで
(続きは2ページ)

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト

ラオス国では1999年に出された首相令により、2020年までに都市人口の8割に対して24時間の安全で安定的な都市給水を行うことを目標としています。JICAをはじめ各ドナー機関はこれまでに様々な支援を行っていますが、2010年の都市における水道普及率は55%にとどまっています。国が掲げる目標値を達成するためには、水道施設のさらなる拡張・更新、そのための事業運営の効率化を通じた投資資金の確保が必要です。事業運営効率化に向けては、これまでに短期的な計画策定とモニタリングの枠組みが設定されています。しかし、自力では短期計画の策定や更新ができない水道公社が多く実効性に乏しい枠組みとなっています。また、水道施設拡張・更新に必要な、中長期的な水需要予測や財政収支見通しに基づく事業計画の策定とモニタリングは管轄省庁である公共事業運輸省による制度化すらされておらず、現にほとんどの水道公社は中長期事業計画を有していません。

そのため、本プロジェクトでは、公共事業運輸省を主なカウンターパートとし、首都ビエンチャン、ルアンパバーン県、カムアン県の水道公社をパイロット水道公社に選定し、①事業計画策定に必要なデータ管理強化、②短期・中期・長期事業計画策定/実施能力強化、③事業計画モニタリング強化、④水道事業計画技術ガイドライン整備、⑤事業計画策定の全国普及へのメカニズム構築を行い、事業管理能力強化の仕組み整備を行っています。

パイロット水道公社 (3公社)



ルアンパバーン県水道公社 (北部)

首都ビエンチャン水道公社 (中央部)

カムアン県水道公社 (南部)

「分科会」のスタート(続き)

分科会員は3パイロット水道公社の各分野担当です。⑤～⑦は水道公社のみならず、行政の職員も分科会員として一緒に協議をしています。分科会は、基本的に月例会議(IPWC+PMT会議)時に半日の予定で情報、意見交換をします(また、必要に応じて分科会員同士で別途連絡を取り合います)。議題は、日常業務の情報交換から、2020年の長期構想、3パイロット水道公社間で統一するものなど、各分科会によって様々です。



パイロット3水道公社営業・顧客関係担当者で意見交換

例えば営業・顧客関係であれば、分科会員は3パイロット水道公社の営業担当です。議題は、1人あたりの水道メーター検針件数といった日常業務の情報交換から、2020年の検針業務はどのようなものが想定されるかを協議します。現在の検針業務は、基本的に検針結果を水道公社に持ち帰り、水道公社の専用ソフトウェアで処理、請求書を発行します(Excelで処理する水道公社もあります)。将来は、持ち帰った検針結果入力ミスの回避や情報一元化を通じた業務の効率化などを目的にハンディターミナルやタブレット

端末導入構想などが協議されています。

また、サマリー年報やデータ管理マニュアル分科会では、プロジェクト後半から全国展開を見越して、3パイロット水道公社間で統一した目次、項目となるよう調整しています。

分科会参加者(プロジェクトメンバー全員です)からは、普段、他水道公社の同分野担当者と情報、意見交換をする機会がないので、とても有益だという声が聞かれます。

プロジェクト運営側もそのような機会を提供し、感謝されることは嬉しい限りです。同時に、プロジェクト目標達成への地道な作業が分科会に詰め込まれていることも感じます(その前に、専門家団によるOJTで担当者の知識・経験が増え、分科会に表出するという仕組みです)。この時期に分科会をスタートさせた下村リーダーの発言が印象的です。「プロジェクト2年目後半になって、ようやく機が熟してきた。」プロジェクト当初から分科会を始めても議題が乏しく、機能はしなかったでしょう。今後、分科会を通じて更なる活動進捗、成果の発現が期待されます。

「水道教室」開催(続き)

プロジェクトの顧客関係支援の一環として提案し、パイロット3水道公社が実施することになりました。

首都ビエンチャン水道公社では、他ドナープロジェクトでも同様の構想があり、実現はしませんでした。水道教室というアイデアはありました。そこに、専門家団によるアドバイスおよび準備進捗管理を促進しながら、実際の水道教室カリキュラム作成や資料作成、学校との折衝は水道公社の自主性に任せていました。また別項の分科会でもパイロット3水道公社担当者間で情報・意見交換がなされました。

ラオスの新学期は9月開始です。首都ビエンチャン水道公社はパイロット3水道公社の先陣を切って9月16日と9月18日に水道教室を実施しました。もちろん、ラオスで初めての水道教室です。プロジェクトメンバーである水道教室担当のMs. Soysavanhは緊張した面持ちで開始を待っていました。首都ビエンチャン水道公社の他のプロジェクトメンバーも多忙な中、応援に駆けつけました。

水道教室の内容は、1.講義:地球上の水全般から水源、浄水過程、水の使われ方、節水のための水の使い方、2:実験:浄水過程模擬、3:水に関するクイズ、です。始まってみるとすぐに緊張が解け、笑いあり、実験には興味津々、クイズでもらえる景品に喜びいっぱいの水道教室となりました。



水道教室講義中に生徒に質問を投げかけるMs. Soysavanh

後日の週会議では、水道教室を振り返り、小学生に対して情報量や専門用語が多かったことが次回の改善点として挙げられました。しかし、水道教室を初めて開催した実績は大きく、10年後には顧客になる小学生に水道事業の内容を伝えられたこと、また、小学生を通じて親兄弟に水道事業を伝えられたことに自信を深めることができたようです。

10月にはルアンパバーン県水道公社が、11月にはカムアン県水道公社が水道教室を実施する予定です。

今後の予定

- 9月24日～11月7日 MAWASUプロジェクト本邦研修
- 10月15日(水)名古屋大学PhD登龍門プログラム受け入れ
- 10月24日(木)山本隆敏短期専門家(行政機能/浄水場施設整備)離寮
- 10月29日、30日 IPWC+PMT会議(月例会議)、分科会
- 11月12日(水)2014年度第2陣短期専門家来寮
- 11月19日(水)厚生労働省主催「ラオス・日本水道セミナー」開催
- 11月20日(木)Project MAWASU第2回国際セミナー開催
- 11月21日(金)第4回プロジェクト間(P2P)会議開催



MAWASUプロジェクト2周年
カムアン県水道公社の皆さんとピクニックに出かけました

*** 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております ***

ラオス水道公社事業管理能力向上プロジェクト事務所

Eメール/電話 : jicapimawasa@gmail.com / (+856-21) 260493

プロジェクトホームページ : <http://www.jica.go.jp/project/laos/012/index.html>